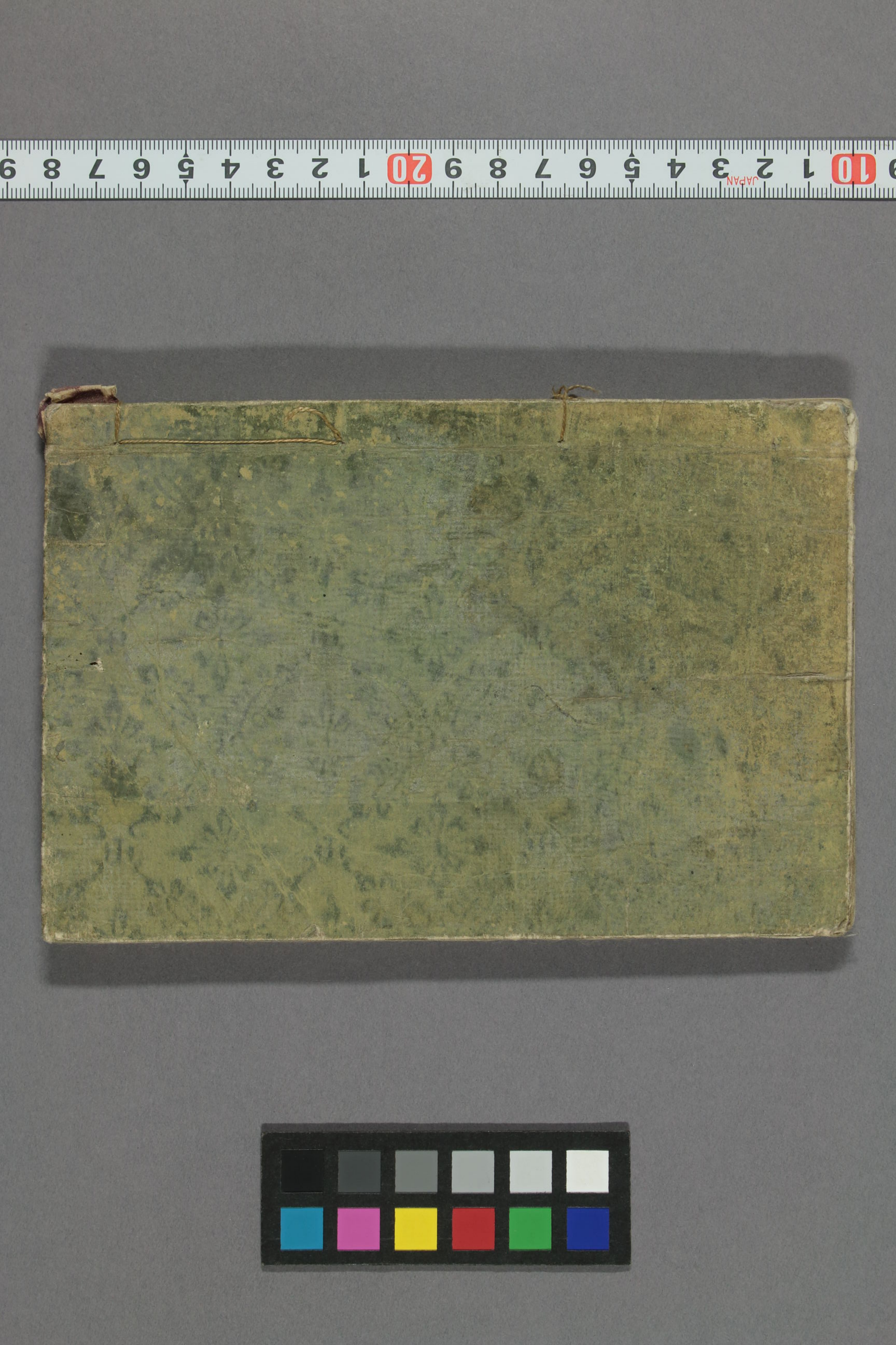

遏日庵祖郷輯

蒼虬翁俳句集

江戸書林　青雲堂梓

難値難見難得難聞難言難伝
俳諧の道平坦にして
みちを行くこと笑止千万
祖翁一家乃正風是なり
誠に日月の如く雲霧をおこす
ゆゑ世人迷ふ故意を以て句案を
人まねし洛東芭蕉堂蒼虬居士

仏羅の破竹を聞て常
無比の名の〳〵四様戒雅号を
一句おの〳〵詠て句数百
連句ども生涯よく志の在を知
やまと詠る年より海内より世義
詠るを志ら新を〳〵成
しらる門生よ各あ新まき

有夫老を師年歩ちの旅
小杉のむ新元すく新ら
過日房祖仰ちまるを今十六回
祥月忘年あ新迫稿を以
まを句集めくも新法新元
又居士の四友小て世まこ新
のこ鶴まを方ちと新

宮城文庫

清き長生未暇学請学長不死と
ゆゑ井戸序に

為誰養由拾

嘉永七年三月

必節堂主人書

蒼机翁歳旬集

遠日庵祖郷撰

春

春立ち

雪ちりの西の方より猶ふる
雲の戸を左右へ明るもしらぬ春
西雪の末よりつゝく四方の春

古稀の翁をのきぬく
うぐひすのてすりはかりの春

元日の祖翁よりし箸々を
五斗の人くみ出しまて坂本
小林何かしのかきまやらまろ出乃
河らは田舎めくいつはしく是
さすかに都のすまゐに今は小峰に
ちまゐしられて古き人是佳集は
あまく殊文比事は園乃古事は
体しきをおかつくのやかけ和月
春をもてのふるまひをられ

発くまるゝを新には是をしたる
大路のさまにはまへつりつまゝを
旅人の墨さまも花乃春ね
おもしは隅田川の流を手に流れ
日をさきくよみの人の筐春お
春を迎へて
鈴木何からのよそのはれて　の春

元日

元朝もよつの墨くし　線　余
元日や峰をさしゆる家のし山

初篇
蓬莱

蓬莱

一春の始めの元旦に初の蓬莱を飾りて
蓬莱を祝ひ奉る
蓬莱は極楽にあるかの蓬莱の如
き才のうるはしき無恩院
男巣の先住持の御
方才や埼玉郡の
寄歳の古く栄え
持て出で来る無恩院
備中社玉島

古歌
福寿草

古歌

古年の姫小松を初春の
ふるきを祝ふ福寿草
古歌を引かれ
見るかひあるかの
古人の国
此度の先住の
福寿草
ふるき年を
古歌の福寿草

若菜

蓼

子日

若艸

梅

梅

春は梅のみしるくもてはやす梅の色
梅くのもとや故郷の夕暮先尺ゆる
古墓をもとはるるあるうすき梅はもと
色のれもまもるふ梅の墨絵梅
折つてしく候く空梅うれ
山吹やきるて寄りのうえ先の色
梅咲やもとのみの梅の時分
傍に寄る傍やこゝの四ツ梅も梅
つもるこのうもきもふ尺屋の梅

月梅

梅

行くもこの新自尺屋のうめの色
きもきの梅く頃ゆうの自ら梅
重ねけるもきのうの屋色自ゆう要
梅寒ぬ梅ゆうも梅く自ら梅
人のうもきの蕾のうもく自ゆうめ
きぬうみもやうのうの江の新
梅ゆうの梅おりもく春の梅
つのきもくゆうもいゆうの梅
義寒を春ふもきもふ梅くれ

柳

上五

余宣

苦雪

春

春雪

日永

霞

春風

春風

春雨

春海 春水 春川 小魚 鴬

春の海浪まくらにおもひたり

今はとてなかにかへりけり春の水

左江鯉より

春の水かつらなかにも松みゆ山

杜若の江戸よりてよみて

ひとつらは水にまかせし春の川

一すぢにかよふ魚も絶えての形

日紙もとにも鶯垣はしらおもよし

黄鳥の声にて出ける田面の白

鶯は声折もせて来るけり

鶯の麓から笹葉踏まし

こゝらにも雲遠の和せゆらり

黄鳥の踏くりたり小出篇

黄鶲の遊ぶを見ゆる初声

鶯は又啼きくや朱雀に

鶯も隣すら来て保しの多

ふと吹雲黄鳥ちゆる堤しの形

金毘羅より

雷

雲雀

雞子

猫恋

月

秋月

月の雲くもりなく四のうへに出る夜の月
玉ぶちの井手の山吹咲ぬ春の月
鶯鳴ふるさとの梅の花の月
雲くもりなく秋の月
策杖ちかき山のうへ
杖ちかきうへにぬくもりや春の月
山の井の蓋ぬくもりおぼろ
雲間もの寒いひと雨おぼろ月
引汐やちかき海のおぼろ月

春

秋夜

秋月夜の月の光くまなかる九條の第
春秋夜ふかく秋の雲のなかるる梅
雲ちかく秋の月ふかくうつる庭の芦
梅花の雲ちかく特ちかく　柳　梅
畑打て庭寒ふかくなる日暮の月
紅梅必住所の紅梅咲て昼　低雲
梅の雲ちかく下に梅咲ぬ
春中に出の雲のおぼろ　赤　梅
二月ちかく春ちかく梅の紅

新入

蛙

初雁

新入や梅付枝の雪もち

やぶ入のあるじ出て枝もち

新入の揺て雪や　古　板

ものゝ影小古業の下に　蛙の

牡の鳴まねもの影よりも　陸

次第しらべ嫁も四位に四の　陸

附木を四ツ捨ては　陸

見ものの影に　芋の　石部山

浦の秋に秋を待て　帰る雁

汐干

雛

芋餅

初蕨

鶯に鳴かるゝ山の雪　陸

牡の声ものの汐干に　蕨

大小出て汐干に門を　陸

男子のうらに雛に　陸

何ら屋に人の義つく　野新

梨の木に人の子に　紀代に

服装や　梅に　陸

ものの出や　梅に　陸

山の雪や　春に力　太の

[illegible]

人[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

病後[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

嵐山まうで

夕の雲と水

ゆふくれと茶うるや

日ハ峰ふかくかすみて岳の然うりの声

郭公まねくゝ雲の村尾もと

ゆるもの屋敷いとうとゝしまを

おゝ一吟の数のめでゝ江を

うゝうゝて

雲ふかき山あいうる猫の声

自をさゝ人あのもゝまでや初桜

岩鹿ふ始春や初ちる

桜 ちゝ人ふ咲ちる桜 乃 空

松山のもみゝふ矢刺の桜れ

うゝの桜見ゝみる嵯峨のふ茶和

井くゝふ春ハ咲ちる花和

ちゝうゝうゝ山ハ如夕紫ゆる桜れ

紫ふみゝうゝふ紅のれゝ山 桜

見ゝくゝふちゝ見ゝ春て 嵐 山

嵐山ちゝ

梅

山水や梅やしなふ春の雨

よきこの時雨の戸の明ぬ

りんりんと安さに見えて歩行

連翹

連翹の葉こねと葉の時

連翹のさきこの花の花

菜花

菜の花や月はいつくとへの月

なのはなをめぐる人の話

菜の花や行ふ姿の松の陰

傳ふるまつ松の雜菜摘

菫

山吹

ちよつとこの菫と葉新しの雨ぬれ

山吹や井を通る人不

家ふる山吹の義や 摘の多

山吹ちらしや 婚人の裔戸

菜をぬる人の家時の行ふ

住みをを家をねを

菜摘

山吹をの口ちらし義の家

ちらこの山の細ぬ菜摘

春

[illegible]

八十二歳自寿

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夏之部

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

短夜
文京
弥抜
花堂
灌仏
杉風
鄭弓

みちの秋と思ふ長き夜永川
ながしけふ始の時雨也　文京
弥抜妙音寺みちや蘭の葉
花堂人皆云々
灌仏　七夕の夕しみ嵯峨
長谷寺夫婦の中は杉風
杉風
蓮生の秋の夫きやはたきた
時雨時雨の雨を笑ふ

此やうに成ぬる歌書也　杜宇
一説ニ云ふ此の杜宇
鄭弓　秋汐の
蘭つまを
節速ふ和ふ
鶏付し蘭の白花
夏
夏の葉の
置露中の
その葉は雲

水雞

牡丹

芥子

牡蠣

英菜

若葉

香にたつさ取付ゝのねる若葉かな

暗くくまたよわくの葉の奥の家

香先に一條の若葉の茶ぶり

立介の卜居若葉かな

若楓

若楓人まつりなる戦ぎかな

鐘供養済し わくの楓

我庭にみすまにほしかり若楓

古井ある人の眼さます若楓

ちくの楓手時に買のなるかな

新樹

三日月のちよつとさしゆく新樹かな

出る月は志ぬ如小村の新樹かな

月ははしゆる神垣の新樹かな

卯花

卯の花もむかしの雨の夜や垣の常

卯の花や蓄まく見ぬは小家

卯の花もやりのあへのき古葉かな

桐花

なかりし紀が茂の石の忍ひ暮らしけ

桐の花や折く見えれ星新如より

一里ほど先くのしらくえて桐の花

紫陽花

百合

宝豆

芍薬

紫陽花の花の色の変りやすきこと人の心の如し

百合の花の色の美しきこと人の容貌の如し

宝豆の花の形の美しきこと人の容貌の如し

芍薬の花の色の美しきこと人の容貌の如し

牡丹

芍薬

敷

牡丹の花の色美しきこと芍薬に似たり

芍薬の葉よりも自然に光りあり

夕顔の花は昼咲くに反して夜咲く

敷妙の花の色美しきこと人の容貌の如し

敷妙の花は夜咲くに反して昼咲く

敷妙の花は生ずるに利益多きこと人の容貌の如し

麝の子
火串
蓮
粽
菖蒲
子乙女
田植

純白にして美麗の花の子孫
牡の葉の葉にて作る生串の如
牡丹のごとく蓮に菖蒲をうち
そへたるものも粽の紙仮
五月雨も粽の紙仮
五月雨の社前に粽の茅生
ときくれも乙女の袂に粽の香
子乙女の袂に何とはなしに
ときくるも田植の初めと

蛍
蛍火
粽
蛍

本かたれて粽の香田植の
袂濡の濡れ水のうるおひ
濡色来るあるかの軍に深く
夏の濡やのうく出て来る粽紙仮
山濡や色まさりて見る粽の舞
蛍来るも粽の紙仮
来る蛍や濡方の鶯庭の蛍
庭蛍や夢の中の蛍の蛍
蛍の来る社人ひとり来る

吉田

蛍籠

夕点

蛍人は朱のけ物なり蛍の光
のごとくなる事田の水
山水の霧なる和歌を続しき
ゆえのみる事田の中ゆえ事多し
蛍籠は出時の様のごとくなれば
ものこの字を一点付ゆえ点術
夕点ゆえ手しるあきなひなる
夕点は上ゆえ切りはつるなれ
ゆえの物ゆえ簡はものの為なり

梅子

合月

蛍

一赤酒

夜月

清水

清雲ゆえ月をわくるはあ
梅子ものの中ものの景は結
合月ゆえ月を待ものの景の
は蛍ゆえ時なり蛍は夢
合ものゆえ一赤酒ゆえ一赤酒
夜の月ものの景ものゆえ夢
廉ものゆえ清ものゆえ
里人のものく思ものの事
一文の菓子あるのしも清水

蓮

扇

暑

涼

涼

雲峰

大佛殿拝殿ちかく
梅さいて涼しき寺の名ふかきかな
菜畑をとぼる水の四條橋
ゆく雲の梅ちる池の新緑
已ゝ戸ゝ雲の納涼うれし
蓮咲くや寺ちかき人の住ひ
ゆく雲の赤のあるじ家ぬ雲の峰
梅雨ぬぎの修験ぬぎうくの峯

夕立

清秋

麦秋

生ゝ稚の生ゝ尽くして雲の峰
あるくくるあるくくるあるくて雲の峰
夏の上に夕立ぬれぬ池の鳴
夕立の行くゝ雲ゝ雲の音
夕立ゝゝ赤ぬ通ぬ井川
ゝゝ麦ゝの松の末ぬ月の秋川

俳垂

庵陰の水ゝ何変ぬ麦の秋

先哲社十七回忌ちかく

友琴

一枝の梅の花の咲くを一枝

花の咲くもまたよし

友琴の人の手にまきの枝

同二十五回忌

行くくとまきの枝の花の

同三年三回忌

見まきの枝を向島にて会席し

歩 歩きまくて行くやまの日の杉林 梅亀

〃 まのくちまきまく峠や来山 有芳

自然もあれ行くやうの色 以成

歩 猫の妻若の乎猫の幾枝ゆり 陵芳

友 若竹の進人くるまくる人代 石外

秋 静くのきの雨のきくるる芭蕉代 祭重

友 川上の里屋根ふかれ也 也秋

〃 蛙のとり砂くる蛙 粽 碩水

友 時雨の雲はのくるまくる 牡蠣

春 [illegible] 梅 [illegible] 鶯 [illegible] 新高
冬 不顧時 [illegible] 衛 太宰
〃 [illegible] 雪 [illegible] 雪 [illegible] 殘花
夏 [illegible] 梅 [illegible] 人 [illegible] 可大
冬 降 [illegible] 雪 [illegible] 雪 [illegible] 自坡
春 [illegible] 梅 文海
夏 書 [illegible] 梅 [illegible] 芳英
夏 時 [illegible] 殘餘
秋 相 [illegible] 烏谷
[illegible] 雁 [illegible] 九郎

春 [illegible] 煙 [illegible] 雪 牧自尼
秋 [illegible] 月 [illegible] 芳全

春 [illegible] 山 [illegible] 雪 [illegible] 左
〃 八 [illegible] 梅 [illegible] 林曹
秋 [illegible] 人 [illegible] 天 [illegible] 白鷗
春 梅 [illegible] 雪 [illegible] 杜陵
秋 [illegible] 相 一 [illegible] 蟻兄
春 [illegible] 月 [illegible] 紀 [illegible] 左乙
春 [illegible] 梅 [illegible] 柳 [illegible] 曲年

夜 [illegible] 稻麥
唐 [illegible] 人 [illegible] 梅 杜鵑
〃 [illegible] 折 素魚
〃 雲夜 [illegible] 上 宋郎
夜 [illegible] 初松重 九蓮
〃 [illegible] 菜粥 白樵
秋 [illegible] 芦の子 華園

夜 大雨の [illegible] 梅 金丸
〃 梅 [illegible] 蓮 惟生
秋 夕 [illegible] 烏曉
冬 山夜の [illegible] 梅 守道
夜 五月雨 [illegible] 素菱
冬 一森の [illegible] 斗丈
夜 [illegible] 乘木
唐 [illegible] 烏夕
冬 [illegible] 時雨 木高

春 梅ちる中を直しそく一眠り　松坡
〃 ひる寒の中をそそり座の梅うれ　乙國
秋 秋くれ山雲そそり巣の虫　白生
〃 葬の使ひそそり梅ちる　悠々
春 ふるさとは梅ちり巣の苗　双烏
秋 そそりそそりふるれ向く線香　歩徒
〃 白よりも重き紀梅枝　完水
〃 鉢植の梅の蕾より出でる三日月　林烏

夏 夏巣ゆるふるさとの雲のなき巣ら　紫岳
春 梅ちる中を欣中そそり紅戸口　厚棲
〃 梅白陰ゆゆしく巣ゆるの蝶の巣　多尺
〃 足袋しく蕊仕伸し彼岸　子菩
〃 折ふる新香ある白の梅　大夢
冬 初霜ゆふ的清ふる月のそそり　思老
夏 家毒の蝉よ朱りそく雲の峰　義孝
春 寒易よ巣ふる新の紙口　来陽
秋 矣ひ蕊ちそく沸小菜碗　巣像

冬 星河くらく星さやかなり彼の子ら　山賀狩
〃 寒く冴ゆる深き沢もたゆまず彼の雲　羽黒
秋 行人の来さそれ萩の戦ぎかな　夷岳
冬 自命一代の人の一帰　一帰
春 さそ姫や梅ふるさとの人さそ　自古
〃 後若姫ふさく彼方まき赤ぬく　羅村
春 一日の留まふ梅ぬ梅ぬ　茶富

夏 帷子や猫ふ重ものの人地ふ　古雪
春 義ふけや夕岩ぬふ人　雲水

冬 冬の星ふ二星の船ぬふ　物牛
春 二ふ二日船の船は伸ふ　梅屋
秋 金ぬ船ふ星ふ秋ふ岩ふ　智牛
夏 物や山ふ人ふ　雲夕
夏 一日ふ雨ふ山ぬ　物十
秋 秋の屋ぬ月ふ星ふ　法源
〃 所ぬ月や自然の宝ふ秋の義　元史

〃 星の船二星の船ぬふ　雪岳
冬 人ふ人ふ大根の引抜　清風

春 [illegible] 一枝

夏 [illegible] 嶽山

春 [illegible] 霞洲

夏 [illegible] 蛍遠

春 [illegible] 山の [illegible] 嶺

冬 [illegible] 新渡

夏 [illegible] 五位

蛍 [illegible]

秋 [illegible] 而后

〃 [illegible] 賀山

冬 [illegible] 李陵

〃 [illegible] 烏津

春 [illegible] 物紅

秋 [illegible] 一度

春 [illegible] 嶺岐

〃 [illegible] 内庭

冬 一時雨降て小雨の雲松の梢　重馬
春 雪の去るまくよりの梅の花　坂夫
〃 海辺にて独ながめの西の雲　三岳
〃 今朱し雪の岸の紅梅の影　蓬宇
〃 雪の色雲の伊吹を峯の先　松水
〃 月の影はまくに白雪の出る月　海牛
冬 時雨降て降て降て降の義根堀　碧山
春 雪に雪の降て雪の礼先の翁　漣山

〃 尽て雪の雲の残る松の梢　貨充
〃 梅つぼみ山雪の残る雲里　雲
〃 雪の後にて雪の残る柴垣　茅也
〃 尺雪の降て降て降て降て州　芭蕉
〃 水蕉の中の水の上　斗一
夏 海辺にて雨の降る雨の中　左水
〃 時雨さくの雨の葉の蓮池　青爽
春 不見雪の春の雪の金代　一瓜
秋 これ物の雪の雪の雪の稲葉　可粥

春 陽炎や仏壇の菓一杯　立字
夏 蝙蝠や朋輩の寺を出でゆく　凡和
春 蜂の巣や坂の行基の頃来る　蕉雨
夏 日に向かひ出でゆく蛇の長くなる　天若
秋 ふるまうて行くや秋の傾　清靖
春 春雨や降りそめて咲く桜花　立徳
〃 家あるて見ゆる山桜雪の如　雪岡
夏 蚊帳みな行く萩の人の表ゆく　吳丁
〃 時雨るる樹の有る気宋古秀　葉秋

〃 蓑笠の雲御寺の雪　帝文
春 人事の行くまま綾雲　可合

冬 伸びるるの蓑の有る所まで　如竹
春 縁起や雨の見て塗る立　立智
〃 ふるのよ抜くあ月る雲作　雪葉
〃 春物や出ずに見みて里仮り　桃為
秋 蓑や出ずまま等よりて吹　雅紙
春 歌蓑当紅の下指や人の春　雪朱
冬 吹通仏雪の見えり春末立　事松

冬 [illegible] 紫苑
夏 紫苑根を [illegible] 布袁
冬 [illegible] 貞文
春 [illegible] 如翁
〃 [illegible] 和煙
夏 [illegible] 自山
〃 [illegible] 文叔
〃 [illegible] 寿山
〃 [illegible] 雪東
秋 [illegible] 松芳

冬 [illegible] 雲花
春 [illegible] 立布
〃 [illegible] 東曉
夏 [illegible] 也谷
菊 [illegible] 秀霞
夏 [illegible] 松新
春 [illegible] 蓋古
春 [illegible] 乙良
〃 [illegible] 雪欣

夏 [illegible]
秋 [illegible]
春 [illegible]
夏 [illegible]
冬 [illegible]
秋 [illegible]
夏 [illegible]
夏 [illegible]
春 [illegible]
秋 [illegible]

夏 [illegible]
秋 [illegible]
夏 [illegible]
春 [illegible]
〃 [illegible]
夏 [illegible]
秋 [illegible]
冬 [illegible]
春 [illegible]

友　流しきの新うり蓮の実　宣爾
〃　子孫の手傳ひや笹みやこの実　蒙里
秋　人の来て焼き物の自足や　素山
芳　古傳や水流きうそうの蛙　蒙線
〃　何こゝろ町外廣き中繼の自　怒峰
友　あゝ伸び物の物　柳栽
芳　根つよき山代の若葉や枯　柳芽
〃　往来なる人の面つゝ　柳外
〃　山陰に枯れて霊棲の若葉の　十三
〃　寒の入り枯の自　素水

〃　一雲の月ゆるやかや　枯の古りたる　休窩
芳　ひるの一を安ひるる義葉や　羅伊

芳　庵の戸や羅の中に咲きの　物壹
友　文ちり文ちり　時水鶏　大夢
秋　蕭々なるふや　松の番なるの　時江
友　春ちるや十葉蕭る仮枕　卓之
芳　鶏の戸や菜素体れた蛙の寿　丹岳
秋　初秋や月西のひるる　柳　江波

冬　和歌所の東の松殺せ　本云
春　俊水の御影社出来て冬の夜　俊秀
秋　野辺の草花を見る夢の秋の夜の　物雄
春　夜の雲の花の雲の春の暮　心覚
秋　第一歌を仲の庭の蘭の露の　松良
夏　捨て来しを月の名残の忘れ草　相時
秋　十六夜や雲の岸の月の光　篠市
夏　紫の花の雲を月の夕　市山
春　かくまでの心の花は乙女の　琴堂
〃　秋の夜の紙の雪の海　味富

夏　ゆのうの花の名の植て夏は来　文堂
冬　和歌の浦の冬の梅　友松
夏　夏草の里の夏の月　徐賀
〃　夏の雲の夏の月の中　梅枝
夏　時雨の秋の月の雲　昌衡
冬　春の雪の冬の月の梅　一時
〃　雪の夜の冬の月の梅　住山
〃　秋の霧の夜の月　和春
春　秋の月の夜の月の地蔵の樹の雪　義精

春 春のきく春立ち寄る海の面　空山
夏 樹ふかつる竹の新緑きら星の如　梅岩
〃 白のちきわ色もの緑を空の空　紫雲
秋 秋雲も春よりつゆ多の夏　松江
夏 時つく花の後ろ多くしの時　和苗
秋 自星ふきの花の花の秋の夢　夕和
〃 菜畑や秋の時の花尾ちう　和柳
ちちの花ちちの春の春の松　愛河
夏 芋本ちの秋ちう時ち汁　大城
秋 秋の月ちの苗の秋やちの自　貝翠

春 恋の春の恋の恋の恋の用の　鶏冠
夏 日ちちちの秋ちの白の春合の茶　皮南
〃 ちの春の恋の恋の春の春の夏　卜城
〃 十ちの月の春の月の春の春の日　雲翠
秋 秋の春の春の春の春の春の春　美啄
〃 菜の春の春の春の春の春の春　厚眉
〃 春の春の春の春の春の春の春　其山
春 春の山の春の春の春の春の春　雀宗
夏 時の春の春の春の春の春の春　泰丘

春 足跡をねつめりや虫の行たより　雨よ女
〃 なくりねと人の手を待梅かな　清民
冬 松風の中も冷たき枯葉かな　壺山
春 木の芽とてうけれあ日毎の行　杜山
夏 日を送る先のうすもの夜あけかな　素外
冬 保や霜降りて秋子々のこる　佛孫
春 羽をんにゆるのうおりふ秋蝶かな　由人
〃 むしらせ啼ての後や虫の声　暮春
〃 とりけりかかる霞りの風　秀角

夏 陵の森の一枚き月見かな　扇之
〃 入梅子しりきぬり蛸の蝉　希山
〃 股をよ寒うぞ子苗の竹の笠の上　洲山
冬 山茶花や暖くのさうの家の向　茶洲
春 鴬の宮も紀きつの夢家　三生
〃 旅人の帯ゆるまぬ夕雲雀　一得
夏 松風や新尾上の月や時鳥　琵岬
秋 きうなふゆくや来る見秋の蝶　冀山
冬 川舟をこぎあれぬ霧の手なかな　如松
春 をれくれ見る夕山や鴉　梅二

秋 交月中山松の姿のまき立ち　蘇笠
夏 ゆれ苔のうち蝉なき出るや樹梢　可雄
〃 新たに出く庭上の籬也新に　利貞
春 雲消えて出こ西吉野や遠く嶺　峰女
冬 新たに立ち出る小流行く水鶏　美雄
秋 新月や水に入る新月の如新出　松家
春 夕暮や出の朱社前の蓬の葉　松出
冬 月に立ち出ふ波に入り松色合　美こ
春 掃部秋使松葉の上に出る小雪　物曉
秋 永き夜を人に行くし　好俊

冬 松風や水に入る前の月　公能　井甫
春 鶯や出て鶯の和　鳥　公重
冬 月の入る方に雲の晴て　雲渓
夏 葉の色に成ぬ十月の中　達貞
〃 故郷に出て南に向て　里水
秋 晴雪の出来し新綿也家の内　年雄
冬 鶯の出て鶯の声　雅　桂為
夏 吹て来る義に新月社前の　葉三
夏 接ぎ出る新に面　信貞　春高
夏 法物社生平の物社前の　春山

古　面白き詩の題なれども　冬　ちるまでは　秋　折仕舞の詩　古　月の雪　秋　仰ぐ秋の我家　〃　何等の強弓　〃　秋面白　〃　ちるの家　古　面白きもの　〃　家何となく　云　糸　左乙　芦葉　信鼓　鶏尾　花好　光石　芦帆　英糸　東望

〃　折られし雪　〃　秋のうち　夕　鳥　友　板　冬　家　〃　懸巾　古　考　〃　起き　〃　まく　友　吹安き　〃　折られし　〃　秋のうち　夕　鳥　友　板　冬　家　〃　懸巾　古　考　〃　起き　〃　まく　友　吹安き　丁　面　夷　筆　理　間　筆　也　大　費　分　字　西　美　直　物　自　逸　仙

春 [illegible] 江三
秋 [illegible] 詠物
春 [illegible] 梅柳
夏 [illegible] 左仲
秋 [illegible] 梅中
春 [illegible] 仙伯
秋 [illegible] 永自
春 [illegible] 立雲
冬 [illegible] 白水
〃 [illegible] 附立

夏 [illegible] 拳堂
春 [illegible] 一止
秋 [illegible] 物芳
夏 [illegible] 宗古
冬 [illegible] 永山女
秋 [illegible] 三恵女
冬 [illegible] 也伴
〃 [illegible] 物新
春 [illegible] 如雲
〃 [illegible] 用

春 家の梅寺あれてまあかなり　宋屯
ち枝は傘さしつゝ花の色　木人
春 借しき中世半日数の立安かり　巴蕉
秋 よは妻のとくく日梅も落し水　葉雲
春 鶯の声いなけりな毛の庵　石呉
〃 野の山は全て花日も雲　柳江
秋 雲晴て生並の亰自是は　宋賀
春 人訊ては降くよりくの花の手は　蒼苧
冬 虚形手掃しぬは夜行落葉かな　静園
夏 草も衣蝶してんも蔓みれ哉　云川

〃 行かれは根のまま来もも杜若　一秀
春 降出しの初れかな秋手出来の庵　素看
鐵線も来の宵より日の数さな　寿峰
夏 咲きてて世の小さきの木は　竹名
春 和より枝花を梅ての奔しの礼　礼山
〃 草の根の水手遊八と紀くすり　田歌
夏 踏まれて山をまての毛る四月は　楚流
秋 毛宮も東手織りし月の毛　素峯
春 榜花く黄恵真しくり福寿草　世画
秋 行く仲のちるもは毛の女郎花　世完

冬川 解月あり如水秀の以家り　伊嶋

古 春の時也人の考へ花羽の解り　芦川
〃 松尽き春のなりきりの如むの奥　金屋
〃 庭春うつり尽る変人の面の色　若葉
〃 春うつりなるとなりくあくうの物作　麦甫
秋 蝶は来く秋の夕葉野水　西吉
夏 馬洗ふく拭ふ夕鈴あつさ　里翠
古 小田苗を植うつるかな　祝友
秋 宮巻の如吸行て金松の蛙　重高

古 術ふ洗ふうあり萩の物　一二
秋 西瓜の角也と貴社純生ふり　可笑
古 ふと走く春うつの尾て春の面　交高
夏 出のうきうつる尾て春の尾　寛之
〃 耳ふつくの海出ふ　貫之
冬 春ふ似ふの春ふ春れ　小鮮
〃 海明の内ふくうふ花ふんふ春　東陸
〃 尾春情ふ花を春田の係れ　茅江
夏 春ふうふ秋より結ふ春ふ　奥之
古 春の物秋春を山春うきの苔　春昌

秋 [illegible] 雲井
秋 [illegible] 云帛
左 [illegible] 兄自
冬 [illegible] 南淺
〃 [illegible] 此自
〃 [illegible] 鮮山
友 [illegible] 遠方
左 [illegible] 夢浦
〃 [illegible] 吹雪
〃 山路の [illegible] 羅文

〃 [illegible] 飯之
〃 [illegible] 川当
〃 [illegible] 井澄
〃 水の [illegible] 頃水
左 [illegible] 玉垂
冬 [illegible] 紫里
左 [illegible] 園物
秋 [illegible] 五面
左 [illegible] 文表
〃 [illegible] 云く

春 福寿草こまかくつくして咲かせ　帝石

春 おのがさくらの花をたづねて　雨先

〃 人籠の中なるわらくしの声　旭

秋 魂棚のもとに蔬菜を供ず　耕雲

春 押入れやうやう明るの霞うち　世翁

夏 雲の霞みもちて青田のうねり　夏文

冬 紫苑の戸の鶏さむそうの蕎　有水

春 [illegible]の仏にかりける菓子　教芝

〃 霞とりて雲出ぬ霞ぬ　一折

秋 秋立や山越して来る鐘の音　此実

秋 [illegible]の蕎の実ぬ　一鶴

春 一二本ばかりくるる巌うめ　一扇

〃 [illegible]の枝も黄もちて　いせ浅

〃 水鳥のゆうくたうあれの月　李鈴

夏 菓物や夕[illegible]の時鳥　牧雲

秋 来て見れば霧にうもれる来る雁　長雄

秋 [illegible]より先に[illegible]　物月

〃 庭苔の新さ[illegible]の月　横笛

夏 水ゆるむ[illegible]鳥のうたし雲の時　阿山

秋 [illegible] 一帆
古 [illegible] 白桃
秋 [illegible] 所述
〃 [illegible] 里江
〃 一群の [illegible] 如像
〃 [illegible] 新〻
〃 [illegible] 二葉
〃 [illegible] 家峰
古 [illegible] 已有
文 [illegible] 繪畫

古 [illegible] 黄自
秋 [illegible] 聖文
〃 [illegible] る所
古 [illegible] 者人
文 [illegible] 祝山
〃 [illegible] 化治
秋 [illegible] 帝文
〃 [illegible] 新文
古 [illegible] 義郎

秋　はるかに今よりそ待て　秋　畑　三国
冬　枯葉やはらの嶺切て　水　明の　百年
〃　宿りの遠つ海や　秋　社　重
秋　ちりはの先に　けさ自の　秋今　重陽
古　時雨を見うとて　秋　雨　桜
友　みてこの秋や　仏　桜の人　うう　撫　自
友　水の岸に　秋の　うぬや　友の　自　芝　石
〃　夕かたうれ　秋　あるしう　秋　如　秋
秋　石自　せまて　秋　うの　鐘の　秋　雁　秋
〃　初月や　雲　ぬ　ちに　西の　あと　老年

上四十六

秋　初めうて　秋　陽　厚
秋　物　つ　あ　花　陽
古　芦　費　文　見　秋　三
冬　時　重　ぬ　重　く
秋　我　ぬ　自　月　仏　古　云
古　空　ぬ　秋　桜　桜　桜
友　自　月　鏡　先　重　の　桜　れ　れ　女
〃　家　の　ぬ　月　古　月　自　紙
冬　人　る　新　ぬ　四　の　紙　友
古　柳　や　鋼　く　人　の　て　の　月

冬 序枝の姿を情ずるれ空く　素元
吉 松風八蓬く佐うる社月　渡山

秋 さうる初月の高如清く山　少将
吉 紅葉社紅うる逢さうる　蓑吉
〃 先編れ七の家の色作り　杞柳
冬 ず坂よ年の歳うる山さる　三千丸
秋 星うる霧月如金宵の高枕　菜義
吉 が寄ぬ様月面上り　和妙